

令和6年度後期学校評価(教職員アンケート)

経営支援部

質問項目	前期		後期		肯定値 の差	考察
	4+3	2+1	4+3	2+1		
① いじめや不登校の起こりにくい、心理的安全性の高い集団づくりに組織的に対応している。	96	4	91	9	-5	後期は、心理的に安全性の高い集団作りが難しい状況があった。今後も学校全体で組織的に対応するよう一人一人が意識して行動する。
② 特別支援部を中心に、全教職員で特別な配慮を要する児童や不登校傾向のある児童の支援に組織的に対応している。	96	4	100	0	4	特別支援部、林先生を中心に、全教職員で対応することができた。引き続き学習室「みどり」を活用した支援方法の改善など具体的な手立てを考え、共通理解を図っていきたい。
③ 「児童の主体性の育成」について、当事者意識をもって積極的に研究している。	96	4	100	0	4	「児童の主体性」について一人一人が意識して研究に取り組んでいる。
④ 研究を通して自己の見取り、適切な評価が向上した。	55	45	75	25	20	新たな評価方法が提案された。来年度に向けて、さらに具体的な方法を共有したい。
⑤ 異学年交流の時間は子供に任せて活動させることができた。	100	0	90	10	-10	後期は子供に任せられない状況もあったのだと推測する。安全を確保し、状況に応じてできるだけ子供に任せていきたい。
⑥ 学力向上部を中心に、宿題に代わる家庭学習の学び方を指導した。(指導する予定)	85	15	95	5	10	家庭学習について指導はしているが、子供への定着は難しい部分がある。
⑦ 評価検討プロジェクトチームを中心に、通知表に代わる効果的な評価方法について研究・検証し、評価方法の改善を行うことができた。	60	40	71	29	11	通知表に代わるポートフォリオ評価が提案されたが、具体的な評価方法の共通理解を図りたい。
⑧ ゲストティーチャーを活用した授業実績及び予定の回数の合計(学年で) 4:3回以上 3:3回 2:1~2回 1:0回	44	56	79	21	35	後期は前期に比べ大幅に数値が上がった。各学年が積極的にゲストティーチャーの授業を取り入れて活用している。
⑨ 当事者意識をもって、サービス事故防止研修に参加している。	100	0	100	0	0	サービス事故防止に関する意識は定着している。今後もサービス事故0を目指していく。
⑩ 学校経営計画の目標実現のために努力している。	100	0	100	0	0	学校経営計画を意識して、全教職員で取り組んでいる。
⑪ 週あたり在勤50時間以内の目標を意識して働いている。	76	24	82	19	6	在勤時間への意識は高まっている。
⑫ 現在までの平均在勤時間は(週あたり)? 4:50時間未満 3:50時間以上55時間未満 2:55時間以上60時間未満 1:60時間以上	76	24	73	27	-3	意識は高まっているので、今後は数値につなげていきたい。
⑬ PL(充電休暇)の取得状況 4:3日以上 3:2日 2:1日 1:0日	0	100	9	91	9	校内体制等からも平日に休暇を取得することはなかなか難しいのが現状である。

「該当する」→4 「おおむね該当する」→3 あまり該当しない→2 「該当しない」→1